

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 9 号

第 9 週(2月28日～ 3月 6日)

発行年月日:平成17年(2005年) 3月 11日

発行 :滋賀県立衛生環境センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (9週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (9週)	全国 (9週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	2	72	9	576
	腸チフス	0	0	9	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	72	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 ^{(*)2}	0	0	8	1	34
	オウム病	0	0	14	1	39
	デング熱	0	1	5	2	45
	マラリア	0	0	10	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	0	107	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	61	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	16	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	0	185	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	10	2	85
	梅毒	0	0	80	4	516
	破傷風	0	0	9	2	100
急性脳炎 ^{(*)2}	0	0	25	1	163	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:平成17年第7週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

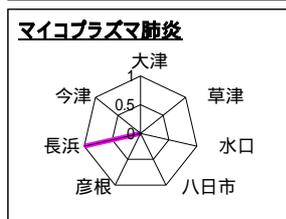
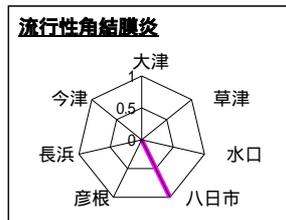
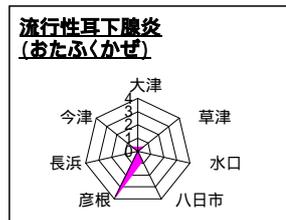
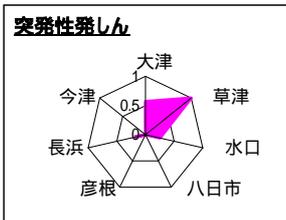
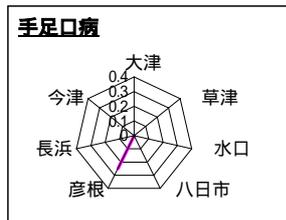
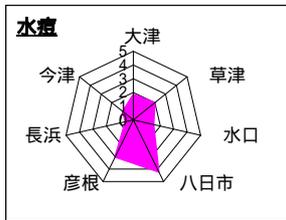
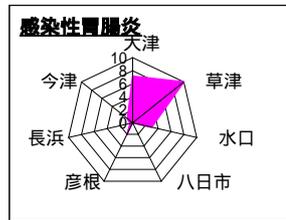
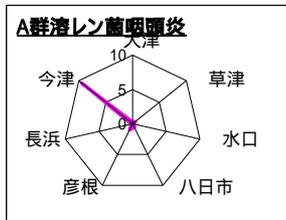
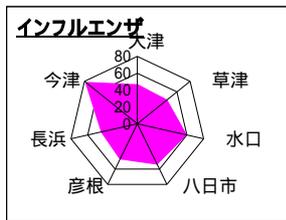
(1)疾病別・週別発生状況(第4～9週、1/24～3/6)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	4週		5週		6週		7週		8週		9週	
	(1/24～)	(1/31～)	(2/7～)	(2/14～)	(2/21～)	(2/28～)	5	6	7	8	9	
インフルエンザ	2.27	5.61	17.25	25.37	46.10	49.16						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.15	0.12	0.06	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.45	0.52	0.64	0.45	0.82	1.00						
感染性胃腸炎	6.12	6.39	5.12	5.03	4.21	4.03						
水痘	2.39	1.61	1.82	1.39	1.42	2.09						
手足口病	0.45	0.12	0.21	0.24	0.09	0.03						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0	0.06	0	0						
突発性発しん	0.45	0.58	0.61	0.45	0.42	0.36						
百日咳	0.03	0.03	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0.06	0						
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0.03	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.39	1.39	0.55	0.79	1.45	0.76						
急性出血性結膜炎	0.14	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.43	0.14	0.14	0.57	0.14						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0.14	0	0.57	0	0.29	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.29	0.14	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第9週、2/28～3/6)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	49.16	45.18	43.60	57.57	52.13	45.00	42.00	76.33
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.29	0.50	0.25	0.60	1.00	0.20	9.50
感染性胃腸炎	4.03	7.14	10.00	3.00	0	1.75	0.40	1.00
水痘	2.09	1.86	2.00	1.50	4.20	3.00	0.60	1.00
手足口病	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.36	0.57	1.00	0.25	0	0	0.20	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.76	0.29	0.50	0	0.80	3.75	0	0.50
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



< インフルエンザの年齢別発生状況 >

第1～9週における昨年と今年の年齢別発生状況を比較すると、今年の5～9歳における発生割合は昨年の18.7%より増加し31.5%となっています。9歳以下の年齢層の発生割合については全体の56.1%を占めています。

また、今年の10～14歳および15～19歳における発生割合は昨年の24.6%より減少し8.4%となっています。

今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザの県内における発生は先週に引き続き非常に多い状態となっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については今津でさらに多くなっています。感染性胃腸炎については先週と同様に大津および草津で多くなっていますが、彦根においても先週よりやや多くなっています。また、水痘については先週より増加しており、特に大津、八日市および彦根で急増しています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

県内7保健所管内全てにインフルエンザの流行発生警報 A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎の発生は地域的な偏り

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(2月21日～2月27日)の報告数より多くなりインフルエンザ、A群溶レン菌咽頭炎および水痘で増加しています。特に、インフルエンザについては増加傾向が持続しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。また、流行性耳下腺炎は減少していますが発生に地域的な偏りがみられます。

インフルエンザについては、先週の定点当たり患者数46.16より増加し49.16となっています。全ての保健所管内に「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生警報**が出されています。引き続き「**手洗いとうがいを十分にする**」、「**人混みを避ける**」、「**マスクを使用する**」などの注意が必要です。

(注)感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに定点当たり患者数の基準値を設定しています。

流行発生警報----インフルエンザの場合、定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照
<http://idsc.nih.gov.jp/disease/influenza/inf-ho/guide04.html>

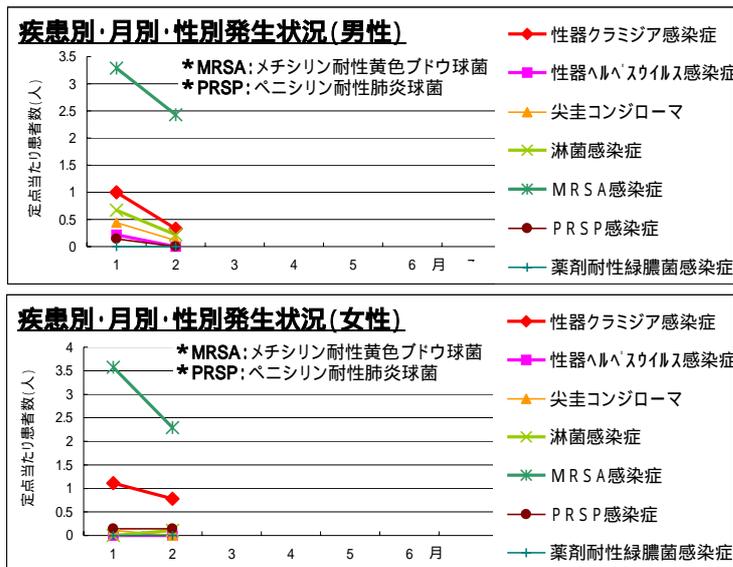
A群溶レン菌咽頭炎については、先週の定点当たり患者数0.82より増加し1.00となっています。特に、**今津保健所管内**において9.50と非常に多くなっています。**流行性耳下腺炎**(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数1.45より減少し0.76となっていますが**彦根保健所管内**では3.75と多くなっています。

インフルエンザウイルスの分離状況(国立感染症研究所感染症情報センターHPより)

2004/2005シーズンにおける全国のインフルエンザウイルスの分離報告数(H17.3.8現在)は、AH1型(Aソ連型)110件、AH3型(A香港型)599件およびB型1,004件となっています。

また、滋賀県におけるインフルエンザウイルスの分離状況については、AH3型よりB型の方が多く分離されています。AH1型は分離されていません。

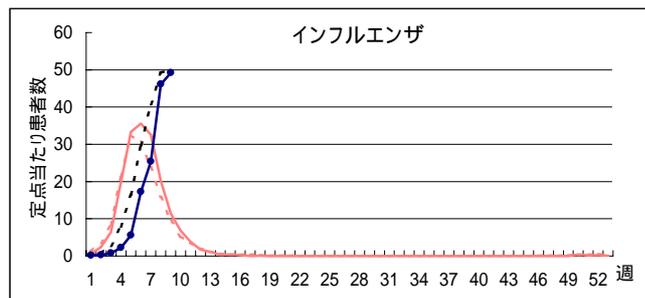
4) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成17年1月～2月)



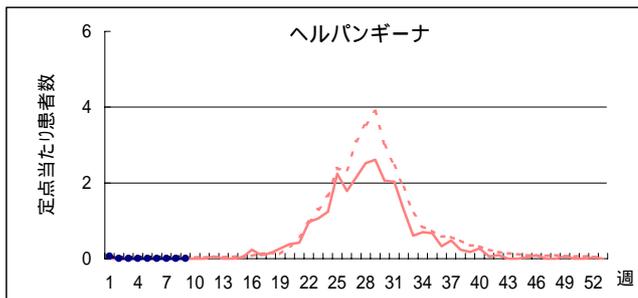
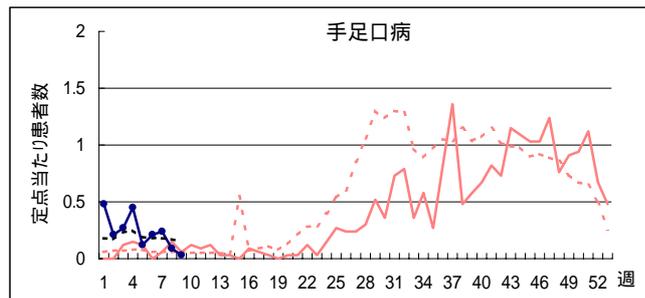
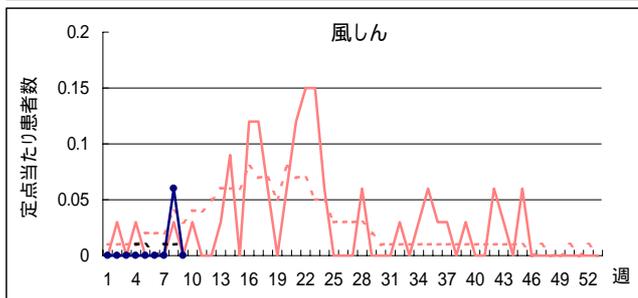
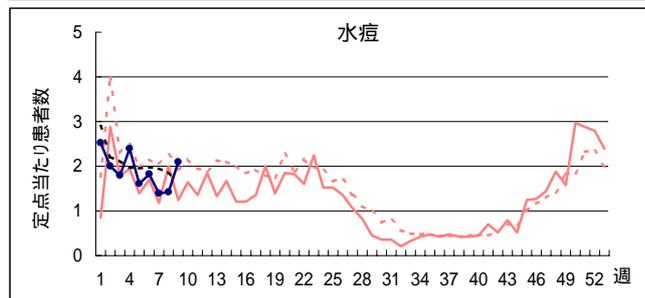
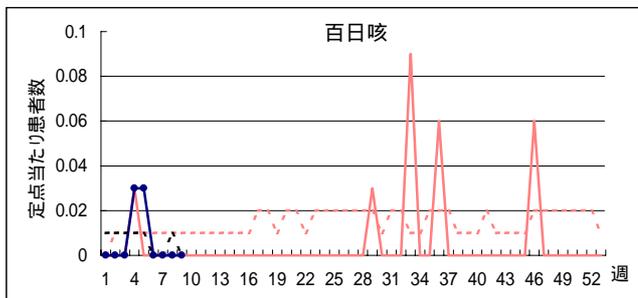
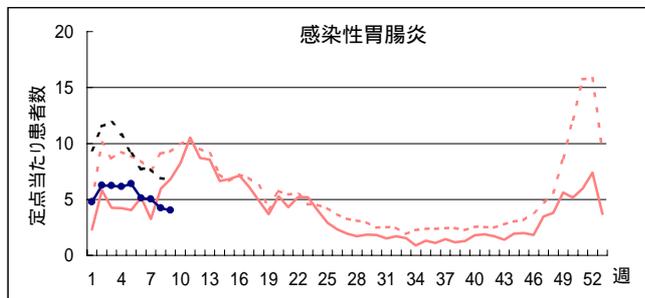
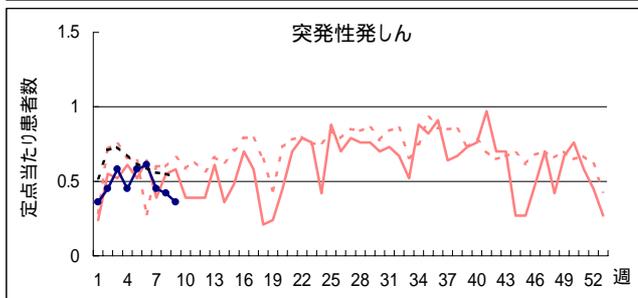
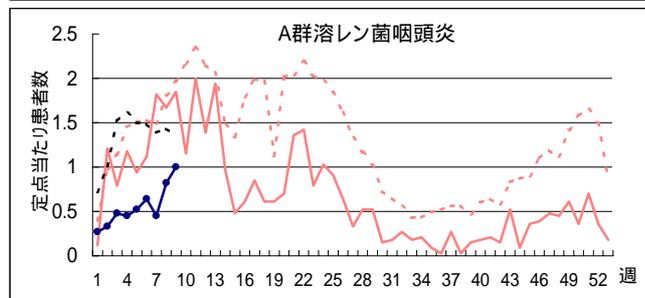
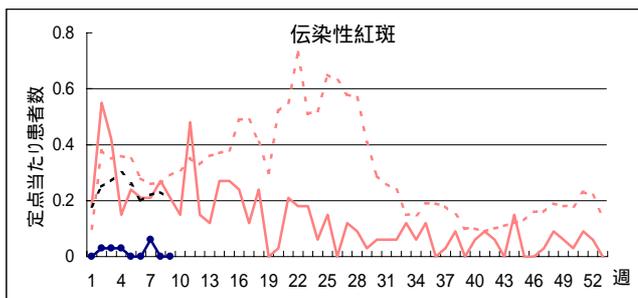
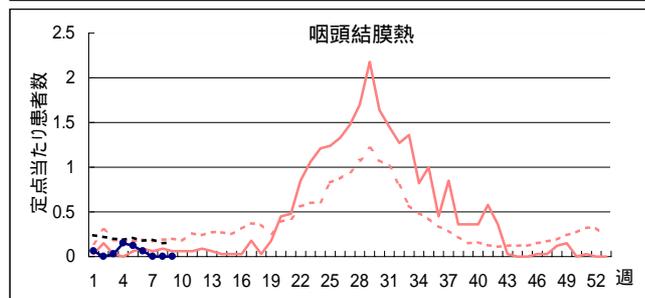
性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、薬剤耐性緑膿菌感染症以外のすべての疾患で減少しています。薬剤耐性緑膿菌感染症については報告されていません(性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況のグラフ参照)。各疾患の月別・性別発生状況はグラフのとおりです。女性における淋菌感染症は先月より微増となっています。また、性器クラミジア感染症については15～19歳、20～24歳、25～29歳および30～34歳で報告されています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第9週、H17.1.3～H17.3.6)

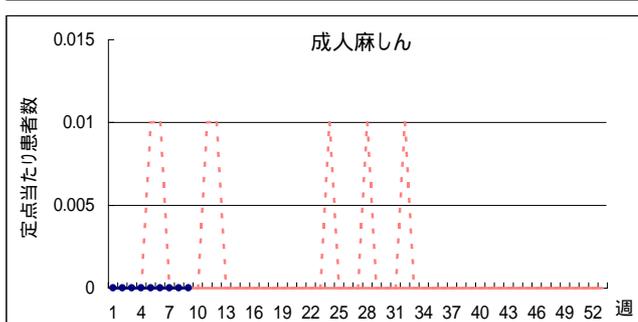
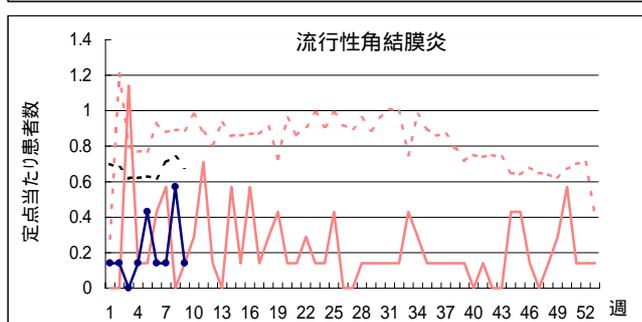
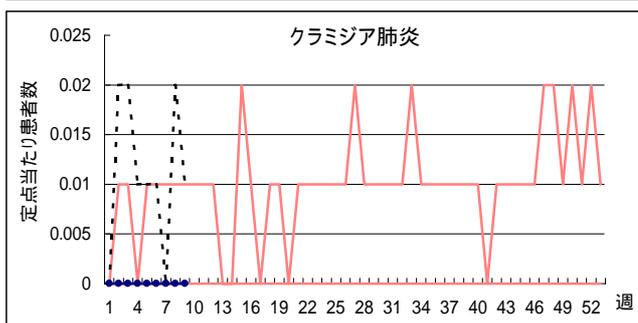
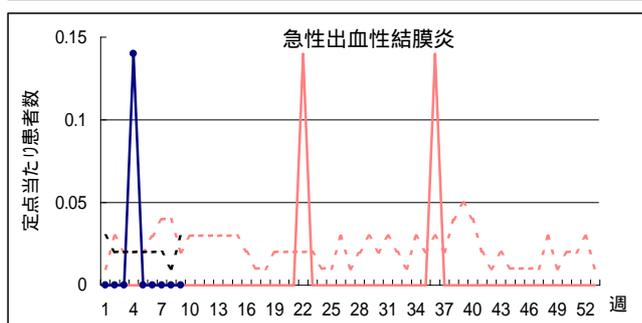
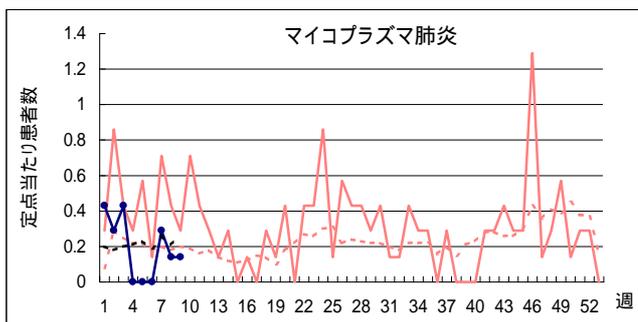
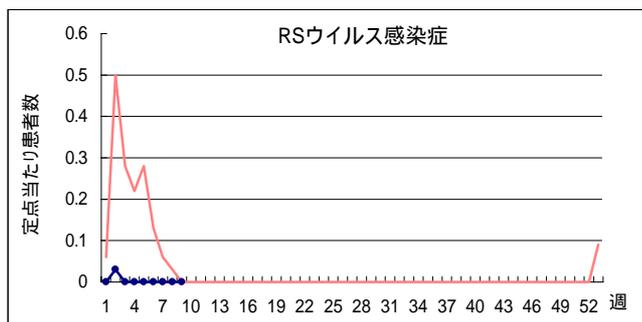
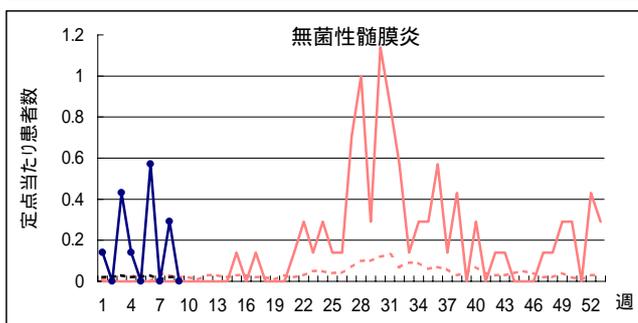
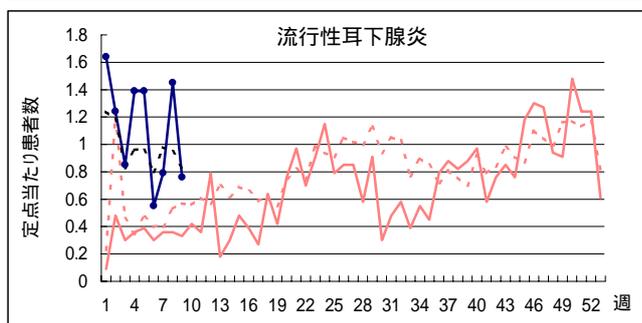
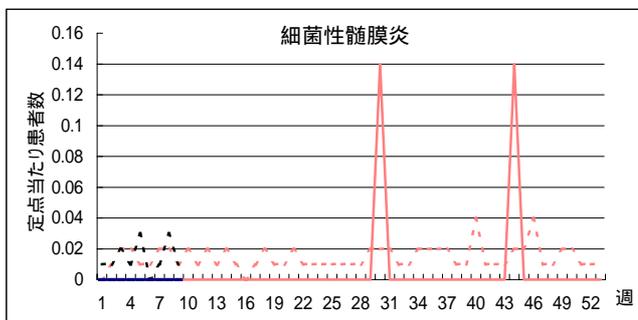
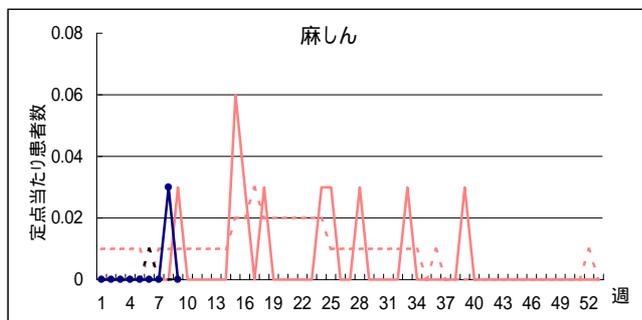


H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第9週、H17.1.3～H17.3.6)

H16 { 滋賀 ———— 全国 }
 H17 { 滋賀 ●——● 全国 }

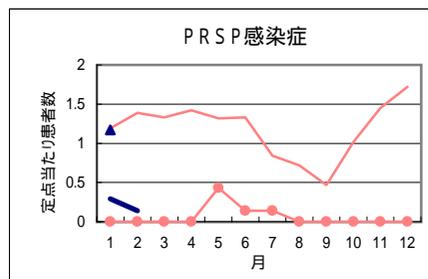
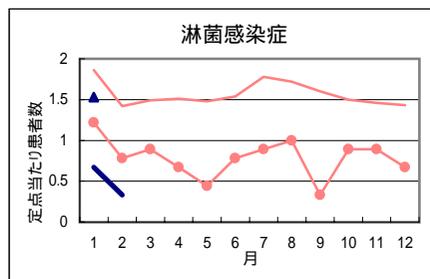
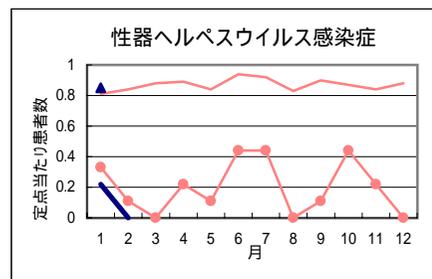
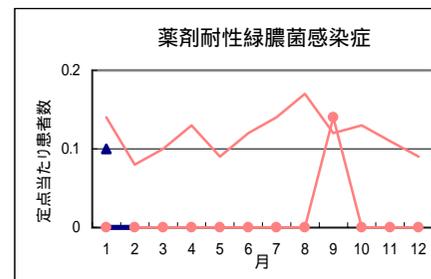
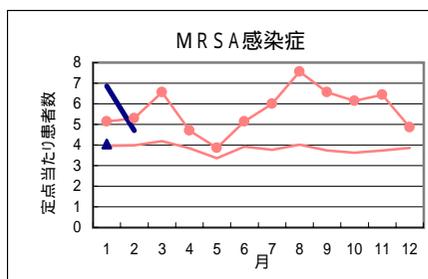
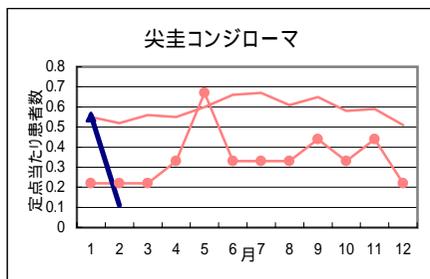
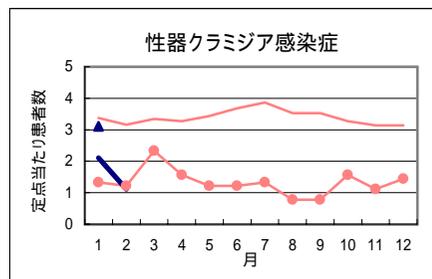


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(滋賀県)

2月報 (集計期間:平成17年1月~2月)

戻る

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
性器クラミジア感染症	罹患数	19	10											29
	定点当たり	2.11	1.11											1.61
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	2	0											2
	定点当たり	0.22	0											0.11
尖圭コンジローマ	罹患数	5	1											6
	定点当たり	0.56	0.11											0.34
淋菌感染症	罹患数	6	3											9
	定点当たり	0.67	0.33											0.50
MRSA感染症	罹患数	48	33											81
	定点当たり	6.86	4.71											5.79
PRSP感染症	罹患数	2	1											3
	定点当たり	0.29	0.14											0.22
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0											0
	定点当たり	0	0											0



*平成17年1月(全国)のデータは、として表示されています。

- H16 { 滋賀 ●●●●●●
- { 全国 ○○○○○○
- H17 { 滋賀 ●●●●●●
- { 全国 ○○○○○○

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

< 特 集 >

海外渡航時の感染症予防について

海外渡航時に感染するおそれのある感染症には、エボラ出血熱、痘そう(天然痘)、ペスト、コレラ、赤痢、アメーバ赤痢、腸チフス、マラリア、デング熱、破傷風、レプトスピラ症など多数の疾患があります。

これらの感染症を予防するためには、

1. 予防接種をする
2. 食べ物に注意する
3. 昆虫(特に蚊)に刺されないようにする
4. 動物との接触に気をつける

ことが大事です。

予防接種が可能なワクチンには、黄熱、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、狂犬病、日本脳炎などがありますが、渡航期間、渡航先、渡航先の活動内容等によって異なりますので予防接種機関や検疫所で相談する必要があります。

また、海外で感染症に感染していてもすぐに発病しないこともありますので、海外から戻った後2ヶ月程度の間には体調に異常があれば早めに医療機関を受診することが必要です。迅速な診断・治療のためには、受診時に海外へ行ったことを必ず医師に話しすることが大事です。

主な感染症の感染予防のポイント

- 海外渡航者のための感染症情報(厚生労働省検疫所)より -

感染経路	感染する疾患名	予 防 方 法
飲食物から感染	赤痢、コレラ、腸チフス、A型肝炎など	<ul style="list-style-type: none">・A型肝炎はワクチンを接種する。・水道水などのなま水(氷を含む)を飲まない。・魚介類、肉類は十分に加熱し熱いうちに食べる。・野菜は生野菜を避け、加熱して食べる。・果物は皮をむいてすぐに食べる。
昆虫から感染	マラリア、デング熱、黄熱、ペストなど	<ul style="list-style-type: none">・黄熱はワクチンを接種する。・ペストはネズミ駆除と衛生状態に気をつける。・マラリアやデング熱は蚊に刺されないように気をつける(防虫スプレー、長袖の服、長ズボンの着用)。
動物から感染	狂犬病など	<ul style="list-style-type: none">・犬、猫に噛まれないようにする。・キツネ(ヨーロッパ)、アライグマ(アメリカ)、コウモリ(アメリカ)などの野生動物にむやみに手を出さない。
ヒトから感染	性病、AIDS、B型肝炎、エボラ出血熱など	<ul style="list-style-type: none">・B型肝炎はワクチンを接種する。・患者の体液や血液に触れない。・不特定の相手と性行為を行わない。・麻薬に手を出さない(注射器を使い回ししない)。
皮膚から感染	住血吸虫など	<ul style="list-style-type: none">・河原や湖畔を裸足で歩かない。・裸足で水に入ったり泳いだりしない。